

Bruce Barth Quartet

[Profile]

ブルース・バース Bruce Barth : piano



1958年、カリフォルニア州パサデナ生まれ。

母はクラシックのピアニストで音楽に恵まれた環境に育ち5歳の時にピアノを弾き始める。

家族と共にニューヨークに引っ越した後、本格的にピアノと音楽理論を学び初め10代の頃にはJazzにのめり込みレコード漬けの日々を送る。その頃にはNorman Simmonsからのプライベートレッスンに加え、ニューイングランド音楽院にてGeorge RussellやFred Hersch等のものでさらに研鑽を積み、ボストン時代には、ブルーノートレコードで“The African Game”や“So What”をレコーディングする。

1988年、ブルックリンへ引越すとすぐに、Nat Adderleyグループのメンバーとして日本ツアーに参加する。

その後、Stanley Turrentineとの共演を経て、1990年にTerence Blanchardクインテットに参加。その後、6年間に渡りツアーや6枚のアルバムのレコーディングそして映画のサウンドトラック制作に参加する他、映画「マルコムX」への出演も果たしている。

また、初となる2枚リーダーアルバム作品「In Focus(1993)」「Morning Call(1995)」は、ともにNew York Timesのトップ10に選出され、ピアニストとしての才能はもちろん、美しいオリジナル楽曲やスタンダードナンバーの印象的なアレンジを見せつけてくれた。

その後も、ソロ、トリオ、クインテット等々、次々とリリースを続け、2001年にはBruceが西海岸で過ごした幼少期の記憶を基に制作した「East and West」を発表。彼のライブをレコーディングした「Live at Village Vanguard(2003)」は、ラジオチャート2位を獲得し各方面より賞賛を受ける。

これまで、James Moody, Art Farmer, Phil Woods, Tony Bennett, Freddie Hubbard, Tom Harrell, Victor Lewis, John Patitucci, Lewis Nash, Vincent Herring, George Robert, Steve Wilson, Branford Marsalis, Wynton Marsalis, David Sanchez, Terrell Stafford, Tim Armacost, Luciana Souza, Karrin Allyson, Dave Stryker, そして Mingus Big Band といった著名なアーティスト達との共演経験を持ち、その活躍からは目が離せない。

ブルースと1年以上にわたりツアーを行ったTony Bennettは、「私には愛すべき素晴らしいミュージシャン達がいる。Bruce Barthは私にとってお気に入りの一人だよ」と述べている。

ヴィセンテ・アーチャー Vicente Archer : bass



ニューヨーク州ウッドストック生まれ。

16歳でウェス・モンゴメリーとジョージ・ベンソンを手本にギターを独学で始める。

ボストンのニューイングランド音楽院でジョン・パートンシーニ、ジェリー・バーゴンジ、ダニーロ・ベレス等に師事し1年間学んだ後、ベースに転向する。転向後、まもなく多数の才能あるミュージシャンを発掘してきたアルト・サクソ奏者ドナルド・ハリソンのバンドに抜擢されアルバム『Free to Be』(インパルス)のレコーディングに起用される。また在学中からエリック・リード・トリオにも参加する。

2000年、大学を卒業後ニューヨークへ移り、マリーナ・ショウ、ロイ・ヘインズ、ウィントン・マルサリスの「リンカーンセンター・ジャズ・オーケストラ」等数多くのミュージシャンと共演する。

現在は主にケニー・ギャレット・カルテット、ニコラス・ペイトン・クインテットで演奏する傍らルイス・ヘイズ、ドナルド・ハリソン、エリック・リード等のバンドにも参加し、レコーディング及びツアーを行っている。

これまでにテレンス・ブランチャード、トム・ハレル、フレディ・ハバード、マリーナ・ショウ、ロイ・ヘイズ、カーティス・フラー、ジェリ・アレン、スタンリー・ジョーダン、ワイクリフ・ゴードン、ステフォン・ハリス、ルイス・ナッシュ、カール・アレン、等と共演している。

アダム・クルーズ Adam Cruz : drums



1970年、ニューヨーク生まれのドラマー。

プエルトリコの伝統的なパーカッションistである父と、著名なトランペッターとダンサーの娘である母により、豊かな音楽環境で育つ。

メイソングロス芸術学校で学び、その後ニュースクールにてJoe Chambers、Keith Copland、Kenny Washingtonらのもので技術を磨きBFA(美術学士)を取得。

1990年代初期には、サクソ奏者のDavid SanchezやCharles Mingusビッグバンドにての演奏活動やレコーディングに参加。

1997年にチック・コリアのオリジンに加入して一躍有名になった。

その後もCharlie HunterとのツアーやDanilo Perezトリオのメンバーとして活躍。

2010年にACFMからレコーディングのための助成金を取得し、2011年に自身のリーダーアルバム「Milestone」をリリースする。

ロサンゼルスタイムズやダウンビート誌、ジャズタイムズ等、各誌より好評を博す。

ニューヨークタイムズでは、「ラテン音楽へ様々な創造的変化をもたらしたサウンドのみならず、叙情的なフリージャズと心地よい次世代のビバップとしてのアプローチも素晴らしい。」と評価を得る。

著名な音楽家との共演も多く、Tom Harrell、Joey Calderazzo、Chris Potter、Steve Wilson、Edward Simon、なかでも上述 Danilo Perez Trioでは長期にわたって欠かせない存在感を見せている。

現在、ニューヨーク市立大学とパークリー音楽大学の国際部門において教員として、後進への教育にも積極的に取り組んでおり、この20年にわたり国際的なJazzシーンにおいて、彼が生み出す創造性は極めて重要であると言わざるをえない。

アナット・コーエン Anat Cohen : tenor sax .clarinet



イスラエルのテルアビブにて音楽一家に産まれる。兄 Yuval (ss)、弟 Avishai (tp) とともに、コーエン3兄弟としても世界各地で活動を展開している。

アナットはテルアビブ芸術学校で学び、「Thelma Yellin」芸術高校を経てJaffa Music Conservatoryへ進学。幼少期よりLouis ArmstrongやSidney Bechet、Benny Goodmanらのレコードを聴きそのJazzサウンドへ傾倒し12歳になるとクラリネットを学び始め、Jaffa Conservatoryのディキシードバンドで演奏をスタートさせる。16歳の頃から学校のビッグバンドでテナーSaxを始める。卒業後兵役につき、イスラエル空軍のビッグバンドでテナーSax奏者として演奏を務める。その後、奨学金を獲得しアメリカへ拠点を移し、ボストンにあるBerklee音楽大学に入学。

在学中には同世代の学生やアメリカを拠点に活躍中の音楽家達から多岐にわたって影響を受けて、Afro-Cuban, Argentinean, klezmer, Brazilianといったジャンルの音楽におけるリズムを研究。パークリー卒業後、拠点をニューヨークに移し、様々なバンドで各クラブやコンサートホール、海外ツアーなどで演奏活動を展開。その後も、女性メンバーのみで構成されたビッグバンドDIVA Jazzオーケストラへの参加やブラジルの伝統的なショーロ音楽を奏する「the Choro Ensemble」などでの演奏等、活動の場を拡げ、2005年にはデビューアルバム「Place&Time」をリリースし、この作品は、Alla bout Jazzで「その年のベストデビューアルバム」に選出される。

2007年、Jazzオーケストラとコラボレートした「Noir」「Poetica」の2作品を発表し、ニューヨークタイムズ紙は「暖かく歌うような音色」と称賛、その他メディアからも好評を博す。

同年、Jazz Journalists Associationに”Up and Coming Artist”と”Clarinetist of the Year”を受賞。2008年に発表した「Notes from the village」ではダウンビートの4つ星アルバムを獲得し、

2009年にはBenny Green, Peter Washington, Lewis Nash等とともにBenny Goodmanトリブートの演奏において、イスラエル人として初となるVillage Vanguardでのライブ録音のメインを飾る等、Anatの音はさらに広がりを見せ、各誌からも熱烈なレビューが連投される。その後も精力的な創作を進め、コーエン3兄弟のプロジェクトに加え、自身のリーダーアルバム「Clarinetwork(2010)」「Claroscuro(2012)」を発表。Anatにとってヒーローの一人ともいえるPaquito D'Riveraは、JazzリンカーンセンターDizzy's Club Coca-ColaのステージでAnetを「史上最高のクラリネット奏者の一人」と紹介している。ニューヨークにある名高いJazzクラブはもちろん、世界各国の有名なクラブやコンサートホールへの出演、ニューボートやニューオリンズをはじめとした国際的なJazzフェスティバルへの参加を果たし、今、世界が最も注目するクラリネット/サクソ奏者の一人である。